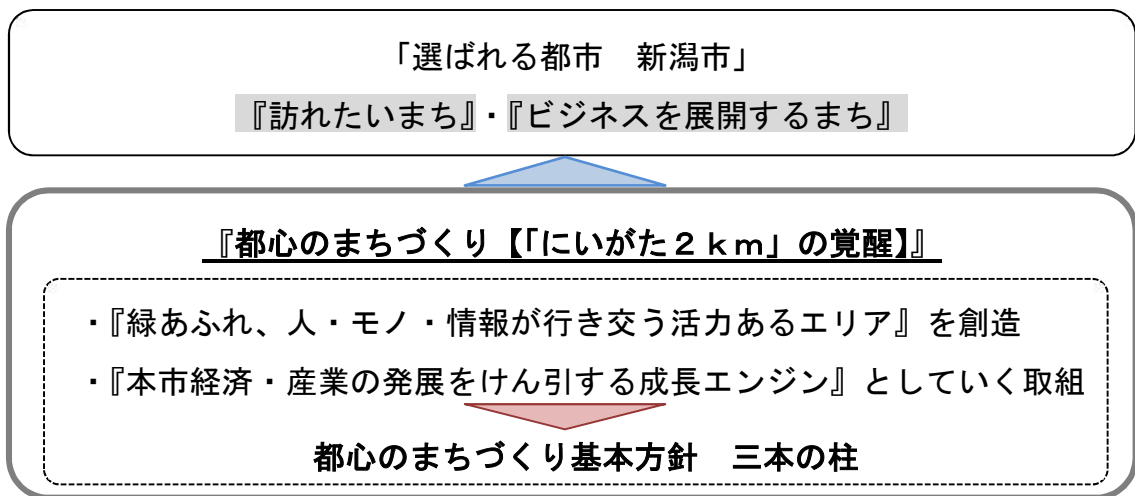


## 都心のまちづくり【「にいがた2km」の覚醒】について

### 1. 位置付け

- 「選ばれる都市 新潟市」の実現に向け、「新潟市都心のまちづくり推進本部会議」での検討を通じ、関係団体・企業の皆様からのご意見・ご提案も参考にしながら、これからの都心のまちづくりに向けた取組の原案として、『都心のまちづくり【「にいがた2km」の覚醒】』を策定。



### 2. 今後の取り組み

- 『都心のまちづくり【「にいがた2km」の覚醒】』で示したまちづくりの方向性やビジョンを市HP等で広く市民へ開示し、ご意見を頂いていく。
- 関係団体等とも、引き続き、意見交換を継続していく。
- 上記取組を行いながら、『都心のまちづくり【「にいがた2km」の覚醒】』を磨きあげ、次期総合計画の中での位置付けについて検討を進める。

### 3. 施策実施に向けた予算措置について

- 上記2の取組と整合させながら、実施可能なものについて、各年度の予算の中で議論していく。

※令和4年度における取組については、1月開催予定の「第3回 新潟市都心のまちづくり推進本部会議」において議論を行う。

# 都心のまちづくり【「にいがた2km」の覚醒】

～市民とともに「かわ・まち・みなと」で紡ぐ過去から未来への成長エンジン～



未定稿

環境建設常任委員会  
令和3年9月24日  
都市政策部まちづくり推進課  
協議会 資料2

## 1. 歴史の継承

- 江戸時代には、北前船の最大の寄港地となるなど、人・物・文化が交流する日本海側最大の湊町として繁栄し、幕末の開港五港にも選ばれた。その風情や趣は現在に受け継がれている。
- 日本海側初の特定重要港湾の指定や、地方空港初の国際空港指定、上越新幹線の開通や、高速道路網の整備など、産業や交通のインフラ整備が着実に進められてきた。
- 2007年には本州日本海側で唯一の政令指定都市となり、さらなる拠点性の向上に向けた施策を推進してきた。

## 2. 本市の現状・課題

- ① 新潟駅周辺整備事業の進展
- ② 都心エリアで民間開発の兆し
- ③ 若い世代の県外流出と人口減少
- ④ 古い建築物の更新の停滞
- ⑤ 進出企業のニーズを満たすオフィス床の不足

## 3. 時代の要請

- ① ウィズコロナ・アフターコロナへの対応
- ② SDGs(持続可能な開発目標)の実現
- ③ ゼロカーボンの推進(脱炭素社会の実現)
- ④ デジタル化の進展

## 4. 【「にいがた2km」の覚醒】へ

みなとまち新潟を象徴する信濃川と萬代橋から広がる「都心エリア」において、高次都市機能の集積や魅力の創出、賑わいづくりを市民の皆様と一体で取り組むことで、『緑あふれ、人・モノ・情報が行き交う活力あるエリア』を創造し、8区のネットワーク強化を図りながら、『本市経済・産業の発展を牽引する成長エンジン』としていく取組を推進。

## 5. 都心のまちづくり基本方針 三本の柱

- I. 人・モノ・情報の中心拠点となる 稼げる都心づくり
- II. 都心と8区の魅力・強みのコラボレーションによる新たな価値の創造
- III. 居心地が良く、市民が主役になるまちづくり

## 6. 基本方針における推進項目

基本方針

### I. 人・モノ・情報の中心拠点となる 稼げる都心づくり

官民協働による「稼げる都心づくり」を推進し、その成長エネルギーを全市域へ波及。

推進項目

- ① 都市機能の更新・充実に向けた都心部の再開発促進(都市再生緊急整備地域の活用)
- ② 戦略的な企業誘致の推進
- ③ 産業DX、ICT推進の先進エリアとしての取組強化
- ④ 歴史・文化・スポーツを通じた賑わいの創出
- ⑤ 観光資源を活かした交流人口の拡大

基本方針

### II. 都心と8区の魅力・強みのコラボレーションによる新たな価値の創造

都市と田園が調和する本市の魅力発信と、異業種間の協業・変革を進め、次世代に向けたまちづくり。

推進項目

- ① 「新潟の食と花」の魅力発信
- ② 「儲かる農業」の推進
- ③ 新たな価値やビジネスが創出される環境づくり
- ④ 観光資源を活かした交流人口の拡大【再掲】

基本方針

### III. 居心地が良く、市民が主役になるまちづくり

都市緑化の推進、道路空間・水辺空間の有効活用など、ゆとりと潤いのあるまちづくり。

推進項目

- ① 信濃川やすらぎ堤の魅力をも十分に活かした賑わいの創出
- ② くつろげる 歩いても楽しい都市空間の実現
- ③ 良好な都市景観の形成

# 都心のまちづくりの基本方針を踏まえた本市の取組の方向性

未定稿

環境建設常任委員会  
令和3年9月24日  
都市政策部まちづくり推進課  
協議会資料 3

都心のまちづくりの基本方針及び推進項目（資料2）を踏まえ、その実現に向けて検討すべき事項を抽出したうえで、取組の方向性について検討を行ったものです。また、その際には、関係団体等から頂いた主なご意見・ご提案（参考資料）についても、参考とさせていただきます。

## 基本方針Ⅰ. 人・モノ・情報の中心拠点となる 稼げる都心づくり ～官民協働による「稼げる都心づくり」を推進し、その成長エネルギーを全市域へ波及～

推進項目	検討事項	取組の方向性
①都市機能の更新・充実に向けた都心部の再開発促進（都市再生緊急整備地域の活用） 高度な機能を備える都心形成を推進するとともに、脱炭素社会の推進や防災力の向上など安心安全な都心づくりを目指します。	・開発の進め方について	・都市再生緊急整備地域の活用により、都心の再開発が促進されるようパンフレット「新潟都心地域の目指す姿」・「新潟都心地域開発ガイドライン」を作成し、活用していく。
	・行政支援について	・再開発補助制度の新設等を検討する。
②戦略的な企業誘致の推進 魅力ある雇用の場の創出はもとより、立地支援制度の新設・拡充により、国内外の企業から「選ばれる都市」の実現を目指します。	・主にIT企業誘致の支援の充実について	・IT企業等が活用できる補助制度の新設・拡充を検討する。
	・スタートアップ支援の充実について	・創業にかかる補助制度の新設・拡充を検討する。
③産業DX、ICT推進の先進エリアとしての取組強化 DXの促進やICTの活用を積極的に支援することで、新事業の創出や高付加価値化の取組を促進します。	・5G環境の整備、5Gを活用した新たなビジネス創出への支援について	・新潟市産業振興センター内に開設する5Gビジネスラボの利用を促進・活用する。
	・企業のDX推進について	・DXプラットフォーム参画企業による既存プロジェクトの推進や、新規プロジェクトの随時立ち上げを推進する。
	・スーパーシティ構想について	・スーパーシティ構想の実現に向けて検討する。
	・ドローンを活用した新たなビジネス創出への支援について	・DXプラットフォームの物流DXプロジェクトを推進する。
④歴史・文化・スポーツを通じた賑わいの創出 みなとまちの歴史・文化を活かした魅力の創出や、文化創造と発信の推進、スポーツによる賑わいの創出を図ります。	・文化遺産をはじめとする歴史的建造物の保護（保存と活用）について	・地域再生計画に基づく「まちなみ整備なじらね協定促進事業」に継続的に取り組む。 ・古町花街地区の特別区域指定に向け関係者との連携、合意形成を図る。 ・歴史的建造物の維持、活用に向けた規制緩和を検討する。 ・歴史的建造物の文化財指定・新規登録を促進する。
	・芸妓などの料亭文化のほか、アニメや演芸など地元住民も引き付ける文化の育成について ・クリエイティブな人材育成のしくみづくりについて ・新潟でしか見られないものを新潟人が作り発信することについて	・古町エリアの空き家・空き店舗を活用したクリエイティブ人材の集積を進め、文化ベンチャーの育成・発信につながる仕組みづくりを検討する。
	・マンガアニメをはじめ、新潟市が誇る文化コンテンツの磨き上げと発信力の強化について ・がたふえすやゲームなどによるまちなかの活性化について	・がたふえすにARやVRなどの最新技術を取り入れることで、さらなるマンガアニメのまちの発信につながるよう検討する。 ・地方から質の高い文化を創造、発信していく持続的な仕組みづくりを検討する。
	・新潟シティマラソンの継続・充実について	・「シティマラソン」の再開を目指す。 ・コース見直しは中長期課題として検討する。
	・「にいがた2km」周辺施設とのイベント連携や異業種協力について	・R3マラソンイベントでストリート陸上を試行し、今後の実施を検討する。 ・異業種を含む民間との連携を検討する。
	・アルビレックスとのコラボによる、新潟独自色の発信と誘客の仕掛けについて	・一部実施済みのフラッグPRの拡大、連携を検討する。 ・民間主体でのPR連携を推進する。 ・「にいがた2km」情報発信との連携を検討する。



推進項目	検討事項	取組の方向性
⑤観光資源を活かした交流人口の拡大 観光資源を最大限に活用するとともに、様々な媒体による情報発信やMICEの推進などにより、交流人口の拡大を図ります。	・北前船、古町花街、みなとぴあ等の観光資源を活かした交流人口の拡大について	・既存の観光資源を最大限に活用し、新潟駅から萬代橋、古町をみなとまちの風情を感じながら、人々が活発に往来するエリアとなるよう官民一体で取り組む。
	・都心エリアにおける情報発信拠点の整備について	・既存の万代、古町の情報発信スポットの有効活用を推進する。 ・新しくなる新潟駅構内に整備予定の新・観光案内所の機能充実を図る。
	・デジタル媒体を活用したプロモーションの強化について	・ARやVRを活用したデジタルコンテンツの導入及び観光情報の提供方法について検討する。
	・MICEの更なる推進について	・ウィズコロナ・ポストコロナ時代に対応した支援制度によりMICE誘致を推進する。
	・県内及び近県自治体との広域連携について	・県内自治体及び近県と連携し、テーマやターゲットを意識した誘客プロモーションを継続する。 ・特に佐渡市については、世界遺産登録を見据えて連携を強化していく。
	・クルーズ船誘致について	・感染状況を見極めながら、まずは国内船社、次に海外船社と段階的にセールスを再開し、寄港を誘致していく。
⑥その他（商店街の活性化）	・魅力あるイベント実施による来客者数の向上、にぎわい創出について	・魅力あるイベントによるにぎわい創出を推進する。 ・地域再生計画に基づく新潟市古町地区魅力創造支援補助金による魅力的なコンテンツの創出を推進する。
	・魅力的なお店の創出について	・経営手法の見直し、業態転換等の検討を促進する。 ・新規の創業に対する支援を行う。 ・地域再生計画に基づくまちなみ整備なじらね協定促進事業の活用を図る。
	・複数商店街の連携、連動した取り組みの実施について	・他の商店街との連携可能性の模索・協議・実施に対する支援を検討する。

## 基本方針Ⅱ．都心と8区の魅力・強みのコラボレーションによる新たな価値の創造

～都市と田園が調和する本市の魅力発信と、異業種間の協業・変革を進め、次世代に向けたまちづくり～

推進項目	検討事項	取組の方向性
①「新潟の食と花」の魅力発信 関係者のネットワークを強化し、本市の強みである食と花の魅力を内外に発信します。	・食と花のイベントについて	・食と花の関係者参加型イベントの開催（各区生産者・料理人・学生による2kmエリアでの定期マルシェ）に向けて検討する。
	・食と花の関係者との連携について	・食と花の関係者ネットワークづくりを推進する。 （生産・販売・料理人・学校など食と花の関係者によるネットワークづくり）
②儲かる農業の推進 スマート農業やフードテック・アグリテックの取組みを進め、新たな付加価値を創出することで、「儲かる農業」を推進します。	・ICTを活用したスマート農業の推進について	・スマート農業の推進に向けた施策拡充を検討する。 ・国、県、関係団体を含めた農業DXの検討会設置を進める。
	・IT事業者と農業事業者のマッチングの場について	・アグリテック企業へ農業者を紹介する取組みを進め、本市の強みである食や農を活かした「フードテック・アグリテック」をさらに推進する。 ・DXプラットフォーム会員と若手農業事業者とのマッチングを推進する。 ・フードテック・アグリテック事業の拡充を検討する。 ・DXプラットフォーム事業の拡充を検討する。
③新たな価値やビジネスが創出される環境づくり 多様な企業や人材、技術やデータなどをつなぐプラットフォームの構築により、イノベーションの創出を図ります。	・企業間連携、産官学連携の推進について	・地域や企業間でAI・5Gを活用した新事業を推進するために、市内外企業が意見交換できるプラットフォームの利用を促進する。 ・スタートアップエコシステムの形成に向けた取組みを進める中で、フードテックに関係する様々な主体や商品・サービスが集まる場の必要性や必要とされる機能について検討する。
④観光資源を活かした交流人口の拡大【再掲】		

基本方針Ⅲ. 居心地が良く、市民が主役になるまちづくり ～都市緑化の推進、道路空間・水辺空間の有効活用など、ゆとりと潤いのあるまちづくり～

推進項目	検討事項	取組の方向性
①信濃川やすらぎ堤の魅力を十分に活かした賑わいの創出 多様な水辺資源を活かし、賑わいを創出するとともに、人が集いゆったりと過ごせる魅力的な水辺空間の形成を図ります。	・「信濃川やすらぎ堤等の水辺空間」の徹底活用について	・信濃川やすらぎ堤や、万代テラスなど水辺空間の賑わい創出を推進する。
	・水辺空間周辺の都市ブランディングについて	・官民連携エリアプラットフォームの構築によりエリア全体での魅力と価値向上を図る。 ・かわ・みち・みなとの連携・広報強化（大河津分水路の100周年と関屋分水通水50周年の記念事業との連携）を図る。 ・より質の高い景観を形成するための景観計画の見直しを検討する。 ・市民との協働による花と緑の空間の創出を推進する。
②くつろげる 歩いても楽しい都市空間の実現 都心の緑化や道路空間の再構築、多様な交通手段による回遊性の向上など、居心地の良い人中心のストリートの形成を目指します。	・人中心のウォーカブルな空間づくりについて	・人中心のウォーカブルな空間づくりを推進する。（道路のリデザイン、ベンチの設置など滞在空間の確保、地下空間の利活用、ウォーカブルに資する駐車場施策の展開）
	・公共空間利活用の推進（歩行者天国、店先のカフェテラス、マルシェ、キッチンカー、イベント開催など）について	・都市再生推進法人の可能性を広げるための施策展開を検討する。 ・歩行者利便増進道路制度（ほこみち制度）の設計及び活用を検討する。 ・民間主導イベント等の道路、公園等公共空間での実施を検討する。
	・歩いて楽しい景観づくりについて	・ウォーカブル推進区域の指定による景観づくりを検討する。
	・ウォーカブルを支える都市機能の向上について	・まちなかでのベンチやトイレの設置（改修を含む）について検討する。 ・ユニバーサルデザインの推進（横断歩道の新設、歩道橋の平面化）を図る。 ・公衆喫煙所の適正配置を検討する。
	・「にいがた2km」の緑化推進について	・民有地の緑化を支援する制度の創設を検討する。
	・シェアサイクル（サイクルポート）の設置について ・観光地へのアクセス、周遊について ・にいがた2kmから東西方向へのアクセス・回遊性について	・にいがた2kmを中心に高機能シェアサイクル（GPS電動車両かつキャッシュレス決済による無人管理型シェアサイクル）の導入可能性を検討する。
	・移動性・回遊性の向上に資する新たなモビリティの導入について	・まちなかにおける移動性・回遊性の向上を図るため、新たなモビリティの導入可能性を検討する。
	・にいがた2km内のバス料金の特別化について ・ICTの活用、MaaSの推進について ・公共交通と商店街・観光施設の連携について ・カーシェアリングの推進について	・にいがた2km等における買い物やイベント需要に対応した土・日・祝日限定のワンコインバスの導入可能性を検討する。  ・ICTの活用、MaaS等の推進に係る事業者の動向に合わせ、広報等の適切な後方支援を実施していく。
③良好な都市景観の形成 良好な景観形成に向けた取組を推進するとともに、ユニバーサルデザインにも配慮したまちづくりを進めます。	・看板の規制等による統一感のある街並みづくりについて	・新潟駅・万代地区将来ビジョンの策定や景観ガイドラインの作成に向けた取り組みを進める。
	・交通拠点として、外国人などにも配慮したサイン関係の整備について	・外国人などにも配慮し、QRコードの活用などわかりやすく使いやすい新たなサイン整備を推進する。

その他.

推進項目	検討事項	取組の方向性
①「にいがた2km」の情報発信マネジメント にいがた2kmの魅力や取り組みを集約し、効果的に情報発信することで、更なる賑わいとまちづくりへの参画機運を醸成します。	・「にいがた2km」の情報発信プラットフォームやデジタルコンテンツの活用について	・まちづくりへの期待感やワクワク感などの機運醸成を図るため、「にいがた2km」の情報を集約・発信する体制や、ビジュアルコンセプト・メディア戦略等の総合的なコーディネートについて検討する。 ・にいがた2kmの情報を効果的かつ効率的に発信するため、にいがた2km内のイベントをパッケージ化した広報やAR・VRを活用したデジタルコンテンツの導入などについて検討する。
②官民連携によるエリアマネジメントの推進 多様な主体がまちづくりに参加しやすい環境づくりを推進し、官民連携による持続可能なエリアマネジメントを進めます。	・企業・団体、新潟市など官民連携によるエリアマネジメントの推進、イベントの実施について	・官民連携エリアプラットフォームの構築および事業の推進を図る。 ・都市再生推進法人によるエリアマネジメントの推進を図る。
	・官民連携による持続可能なエリアマネジメントを実現するための屋外広告物規制の緩和について ・官民連携による持続可能なエリアマネジメントを実現するための公共空間の利活用の推進について	・エリマネ広告を可能とする屋外広告物条例の改正を検討する。 ・都市再生推進法人による特例制度の活用を検討する。  ・歩行者利便増進道路制度（ほこみち制度）の活用を検討する。 ・新潟駅の新・万代広場のエリアマネジメントの導入を検討する。 ・エリアを象徴する通り名（愛称）の設定を検討する。



# 主なご意見・ご提案



環境建設常任委員会  
令和3年9月24日  
都市政策部まちづくり推進課  
協議会 参考資料

都心のまちづくり推進本部では、官民連携して知恵・情報・力を結集し、魅力あるまちづくりを進めていくため、令和3年5月に約100の関係団体・企業等からお話を伺いました。下記は、そこで頂いた約300のご意見・ご提案を整理したものです。

## 産業・ビジネス

### 【都市再生緊急整備地域の指定】

- 都市再生緊急整備地域の指定の効果を最大限発揮できるよう官民連携での取組を推進

### 【都心エリアにおけるICTの推進】

- にいがた2kmエリアに、フリーWi-Fi、5G環境を広げ、ビジネス展開しやすいまちづくりを
- まちなかでのドローン物流の推進など先端技術を活用するエリアとしての取組を強化していくべき
- デジタル技術を活用したデータ収集方法を導入し、まちづくり施策やビジネス展開へ繋げてはどうか  
(例：モバイル空間統計やデジタルサイネージカメラ等)

### 【にいがた2kmを盛り上げていく官民連携のエリアマネジメントの推進】

- 持続可能な官民連携エリアマネジメントの仕組みづくりが重要  
(官民の役割分担、エリアマネ団体の人材・財源確保策としての規制緩和など)

### 【企業誘致の推進】

- 本社機能や起業への支援制度を拡充すべき
- 市外企業へのPRの充実をはかるべき  
(良質なIT人材、暮らしやすさなど)

### 【企業連携プラットフォームの構築】

- 企業間が連携し共創する場「プラットフォーム」づくりを推進

### 【商店街の活性化】

- 西堀ローサ、ルフル広場、モールなどの特徴を活かした賑わいの創出を
- 魅力的な店づくりや空き店舗対策、商店街の連携といった活性化へのきっかけづくりとなる支援をしてはどうか

### 【就職・就労の支援】

- 就職・就労支援の充実に向けた検討  
(外国人留学生も含む)

### 【福祉・健康部門のDX化・高齢者にやさしいまち】

- ICTを活用した福祉・健康事業の推進
- 都心でも安心やお互い様があるまちづくりを

## 文化・観光

### 【歴史的建造物の保全・活用の推進】

- 古町の歴史ある景観や歴史的建造物の保全に対する支援を望む  
(助成金や規制緩和)
- 古い建築物の活用や町内行事の再興など市民団体等への支援も行っていくべき

### 【文化の育成・発信】

- 芸妓など料亭文化に加え、アニメマンガ、演芸など、更なる文化の育成を
- 新潟でしか見られないものを新潟の人たちで作り発信していく必要性があるのでは

### 【スポーツを通じた賑わい創出】

- 都心エリアでスポーツイベントを実施してはどうか
- ランニングステーションや自転車専用道路など、スポーツの視点による環境整備を検討すべき
- アルビ戦の観客を都心エリアに呼び込む仕掛けづくりについて

### 【観光資源を活かした交流人口の拡大、戦略的な情報の発信など、観光施策の充実】

- 北前船、古町花街、齋藤家別邸、旧小沢家、みなとぴあ等の観光資源を活かし、交流人口の拡大を図ってはどうか
- 都心エリアにおける情報発信拠点を整備してはどうか
- デジタル媒体も活用し、プロモーションの強化を図るべき
- MICEの更なる推進を図るべき
- まち歩きや観光ツアーの充実化を図るべき

### 【新潟まつりの見直し】

- 新潟まつりのあり方、充実化に向けた検討

### 【国際交流都市としての質の向上】

- 外国語のアナウンスや案内表示の充実化
- 都心に多種多様な人が集まり交流や生活相談やビジネスも展開できる「交流スペース」の設置を
- 外国人と市民、地域がつながるイベントの開催など

## まちづくり

### 【信濃川の景観とやすらぎ堤の活用】

- 「信濃川の景観とやすらぎ堤の水辺空間」を徹底活用し、「水の都にいがた」として都市ブランディングへ繋げるべき

### 【ウォークブルシティ・都市緑化の推進】

- 賑わい創出には、人がゆっくり歩いて、くつろげる、楽しい空間づくりが重要。2kmエリアは車を抑制し歩行者中心にしてはどうか  
(歩道拡幅や歩行者天国など)
- 店先のカフェテラス、マルシェ、キッチンカー、イベント開催など、道路空間を活用した賑わい創出とそのための規制緩和を検討すべき
- 民有地も含めた都市緑化を推進していくべき。また、緑化に様々な人が参画できる仕組みづくりを
- 景観ガイドラインに緑化に関する記載を盛り込んではどうか

### 【良好な景観の形成に向けて】

- 良好な景観形成の視点で統一感のある、わかりやすいサイン・看板の設置を促進すべき
- ユニバーサルデザインを踏まえたサイン整備を推進すべき

### 【万代島地区の賑わい創出】

- 日本海フェリー、佐渡汽船ターミナルからの動線の整備
- 朱鷺メッセを郊外からの集客の玄関口と位置付け、朱鷺メッセから市内各所の魅力的な集客施設へアクセスさせる方策を検討してほしい
- 大かまをもっと有効利用すべき

### 【シェアサイクルの促進・新たなパーソナルモビリティの導入等】

- シェアサイクルを持続可能なシステムとするための行政支援を望む
- 電動キックボードなど、新たなパーソナルモビリティの導入により移動性の向上を
- 駅前駐輪場を有料化することできれいな駐輪場として運営してはどうか

### 【公共交通の利便性向上】

- にいがた2km内のバスを特別料金にできないか
- 都心軸からの二次交通のあり方を検討すべき
- 運行情報等のアプリ配信やMaaS推進を検討すべき
- バス、JR、タクシー、水上バスの連携を強化すべき
- AI制御、電動駆動、エコエンジニアリング、LRTなど次世代を見据えた公共交通を検討すべき

### 【都心部の駐車場について】

- 駅周辺・古町の小規模コインパーキング乱立の解消
- 大規模な立体駐車場を整備し、周辺ビル・店舗と連携
- 無料駐車場の整備

### 【空き家対策】

- 下町エリアは高齢者が多く空き家が多い。何らかの活用により、賑わいの創出や地域の活性化につなげてはどうか

## 食と農業

### 【「新潟の食と花」に関する集客・PR・販売力の強化など】

- 食文化を体感できる集客施設を整備してはどうか
- 都心エリア内で農産物直売所の設置やマルシェの開催など、ショーケース機能を持たせPRを強化しては
- EC販売やアプリでの商品発注・受領の仕組みづくりを検討してはどうか
- 専門学校・大学・小学校等との連携による食文化の推進
- 各協会や料理人の連携・協力で各種イベントの更なる充実を

### 【儲かる農業の推進】

- ICTを活用したスマート農業の推進(施設管理、事業・技術承継、販売促進等)
- IT事業者と農業事業者のマッチングの場を

## にいがた2kmの情報発信

- にいがた2km内の様々な情報(各エリアの魅力・取り組み、イベント等)を集約し、一括して発信していく仕組みを構築すべき
- デジタルコンテンツも積極的に活用してはどうか